

中央社保協ニュース

18-10号 発行・2019年8月1日 中央社会保障推進協議会

中央社保学校 in いしかわ

学習講演、魅力の分科会紹介③

参加申込み締切・8月15日

第47回中央社保学校は、8月29日～31日に金沢市で開催されます。今回の「社保学校」では、1日目に学習講演として小森陽一先生、井上英夫先生の講演、そして「対談」を行います。また、2日目(30日)の分科会も多彩な顔ぶれの講師の皆さんに登場をしていただきます。

引き続き講師の工藤浩司さんから「分科会3」への抱負、初日に行う「学習講演」でお話いただく井上英夫先生からの皆さんへの呼びかけをいただきましたのでお読みください。

参加申込みは、8月15日締め切りです。社保協ホームページから申し込み用紙をダウンロードをしていただき、FAXまたはメールにて申し込んでください。

ホームページはコチラから⇒



2日目 テーマ別 分科会 9:00開場 9:30～12:00 [会場]金沢商工会議所会館 金沢市尾山町9-13

<p>分科会 1</p> <p>社会保障入門講座 (会場は石川県教育会館会議室)</p> <p>講師 鈴木 静氏 愛媛大学教授</p>	<p>分科会 2</p> <p>介護保険の現状と対抗軸 — 介護保障に向けて</p> <p>講師 井口克郎氏 神戸大学准教授</p>	<p>分科会 3</p> <p>医療制度改革の 現状と対抗軸</p> <p>講師 工藤浩司氏 石川県保険医協会事務局長</p>
<p>分科会 4</p> <p>年金制度について: 最低保障年金制度の 第3次提言を学ぶ</p> <p>講師 加納 忠氏 全日本年金者組合大阪府本部長</p>	<p>分科会 5</p> <p>生活保護は人間らしく 生きるための砦</p> <p>講師 村田隆史氏 青森県立保健大学講師</p>	<p>分科会 6</p> <p>社会保障としての 国民健康保険を学ぶ</p> <p>講師 長友薫輝氏 三重短期大学教授</p>

学習講演・井上英夫さん・・・人権としての社会保障の現状と私たちの課題

陸前高田から沢内村、多摩全生園へ

今日は7月31日、東京へ向かう東北新幹線車中です。
27日金沢をたち、岩手県陸前高田そして西和賀町旧沢内村を巡り今日は東京の高齢期運動サポートセンターの総会、そして明日1日にはハンセン病療養所多摩全生園訪問の予定です。

東日本大震災・原発爆発から8年、途中、3500名以上の死者・行方不明者のでた石巻は立派な道路が通り、新しい街並みが作られています。しかし、目立つのは墓地であり墓石の新しさでした。

1800名以上の死者・行方不明者を数える最悪の被災地陸前高田は、復興いまだし、一割程度ということでした。高さ12・5メートルの巨大防潮堤はできたものの中心市街地は陸地のかさ上げ工事の最中でした。眼前に、ゼネコン、コンサル、大型商業資本等が跋扈し、思いのままに金をつぎ込む、日本の箱物、土建行政が展開されていました。

復興は人間の復興でなければならない。被災された住民の思い、願い、個人そして地域としての自己決定・住民参加が保障されなければならない。しかし、陸前高田の市長・行政は、重要事項の決定に住民の参加を認めない独断専行のそしりを免れないものでした。

私は、新しい人権として「住み続ける権利」を提唱しています。生まれ育ち、暮らした地、自ら選んだ地域で、自ら選び・決定した生活を送る。「住み続ける権利」の確立こそ日本・



世界の課題だと改めて痛感しました。「住み続ける権利」の侵害・はく奪は、災害にとどまりません。沢内村の生命尊重行政は、貧困、多雪、多病を克服し、国の農村・地方破壊農政、社会保障政策の貧困に打ち勝ち、住民の「住み続ける権利」を保障するためのたたかいでした。ハンセン病強制絶対終生隔離収容絶滅政策も、死んでも、骨になっても故郷に帰れないという患者さん、回復者そして家族の「住み続ける権利」を奪うものでした。

「住み続ける権利」を奪うものでした。

「住み続ける権利」、その中核となる人権としての社会保障を現実のものとするには、平和でなければなりません。すなわち平和的生存権の確立が大前提です。憲法9条と25条は一体です。

憲法9条を守る運動を続けている小森さんにお会いできるのが楽しみです。また、人権が保障され飢餓や貧困のない真の平和（積極的平和）確立のために日々たたかっている皆さんとの議論を待ち望んでいます。

勉強の後には、金沢の食と文化を満喫していただければ幸いです。

分科会3・工藤浩司さん・・・医療制度改革の現状と対抗軸

2012年に成立した社会保障制度改革推進法に基づき、社会保障制度は給付の重点化・効率



化を目指した改革の渦中にあります。そのターゲットは文字通り社会保障全般に及びますが、真っ先に俎上に挙げられたのは「医療・介護の提供体制改革」でした。患者・利用者的大幅な負担増、診療報酬の本体マイナス改定、急性期病床削減を企図した地域医療構想、保険料の引上げが不可避な国民健康保険の都道府県単位化などなど、その「改革」メニューを挙げればきりがありません。



本来であれば、これらのテーマごとに一つ一つ分科会を設定しても議論するに足る話題があるように思われますが、本分科会は「医療制度改革の現状と対抗軸」という大きなテーマ設定となっています。時間も限られていますので、私から問題提起するのは、次の3点を予定しています。

- ① いわゆる「社会保障・税一体改革」を具体化する指針となっている「社会保障制度改革国民会議報告書」で示された、国が考えている「社会保障観」を、改めて押さえる。
- ② 医療制度をめぐる多岐にわたる改革内容について、それぞれがどのような関係を持ち、全体としてどこに向かおうとしているのかを俯瞰的に整理しておく。
- ③ これらの社会保障給付削減の動きには、「いつでも、どこでも、だれもが必要な医療を受けることのできる」医療保障の充実策を対置する。対置されるべき理念は「健康権保障」であり、それを具体化するものとして「現物給付原則」を位置づける。

以上のように、どちらかと言えば議論のベースとなる総論的な提起を、まずは私から行わせていただきます。医療制度改革を巡る個別具体的な問題については、後半のディスカッションの中で意見交換できればと思います。参加される皆様から、それぞれが直面している具体的な課題や経験、あるべき医療保障制度についての思いを出し合ってください、ともに交流できる場にしていきましょう。私自身も参加される皆様から多くのことを学ばせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

《中央社保学校 in かなざわの概要》

<p>1日目 8/29 木</p> <p>13:00 開場 13:30～17:00</p> <p>学習講演 【会場】石川県教育会館</p> <p>1 「憲法9条を巡る情勢と私たちの課題」 講師 小森陽一氏 (日本文学専攻/東京大学教授 2019年3月退任)</p> <p>2 「平和的生存権——人権としての社会保障の現状と私たちの課題」 講師 井上英夫氏 (法学者/金沢大学名誉教授)</p> <p>講演後 フロア質疑 & 小森氏井上氏 対談</p>	<p>2日目 8/30 金</p> <p>9:00 開場 9:30～16:30</p> <p>テーマ別分科会 【会場】裏面 各分科会の詳細は裏面をご覧ください</p> <p>貧困問題シンポジウム 13:30～16:30 【会場】石川県教育会館 総合司会 鈴木 静氏 (愛媛大学教授)</p> <p>1 基調講演 講師 長友 薫輝氏 (三重短期大学教授)</p> <p>2 シンポジウム 福井・富山・石川 3県からの報告</p>
<p>明日からの運動に役立つ企画がいっぱい。 職場・地域から誘い合って参加しましょう!</p> <p>1. 参加費 【29・30日】1日 2000円 【31日】500円</p> <p>2. 参加・宿泊申し込み 参加・宿泊 (各自または紹介) 申し込みは別紙にて申し込み下さい。詳細は公式HPをご覧ください。 中央社保 <input type="text"/> <input type="button" value="検索"/></p>	<p>3日目 8/31 土</p> <p>9:00 開場 9:30～12:00</p> <p>市民公開講座 【会場】石川県教育会館</p> <p>「消費税と社会保障」 講師 斎藤 貴男氏 (ジャーナリスト)</p>